

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名		
		2・東書	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・701 道徳・801 道徳・901	新訂 新訂 新訂	新しい道徳 新しい道徳 新しい道徳	1 2 3
取扱内容	学習指導要領及び教科書の各目録	<p>○ 主として自身自身に関するもののうち、「自主、自律、自由と責任」及び「向上心、個性の伸長」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「自主、自律、自由と責任」について</p> <p>第1学年～ クラスメイトからいじめられて、登校できなくなつた生徒に、対して、何もできなかったことを後悔する主人公を描いた物語を教材として、いじめの状況をつくらないためには、どうしたらよいかを考える活動（「傍観者でないのか」）</p> <p>第2学年～ 小学生の時に友人に誘われて、おもしろ半分「あの子」のランドセルを傷つけた主人公が、中学生になって後悔する物のランセルを教材として、主人公が小学校に入学する妹を見つめて、どのようこのことに気付いたかを考える活動（「あの子のランドセル」）</p> <p>第3学年～ 誘いを断った友人の態度に腹を立てた主人公が、自分の気持ちを書き込みした結果、友人に話しかけるクラスメイトがいなくなつていった物語を教材として、人をいじめるしまわらないために大切なことは何かを考える活動（「ある日の午後から」）</p> <p>(2) 「向上心、個性の伸長」について</p> <p>第1学年～ 短所と思われの中にある長所を活かしたり、長所と思われの中にある短所を改めたりすることが大切であるという考えを述べた文章を教材として、自分の短所がどのようなところで役立ちそうかについて考える活動（「自分の性格が大嫌い！」）</p> <p>第2学年～ 自分がやりたいことが何かを悩んでいた生徒が、ジャズダンスに出会い、変り始めて自分を実感して生きることをするために書かれた作文を教材として、自分らしい生き方を考える活動（「私は十四歳」）</p> <p>第3学年～ 自分なりのまとめさがあると言葉で自信をもてるように感じた生徒が、友人からの賞賛の言葉で自信をもてるように「よいところ」を考えた活動（「ぼくにもこんな『よいところ』がある」）</p> <p>○ 主として人との関わりに関するもののうち、「思いやり、感謝」及び「相互理解、寛容」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「思いやり、感謝」について</p> <p>第1学年～ 家で叱られて落ち込んでいる友人が描かれている絵を教材として、自分であれば、友人にどのような言葉をかけるかについて、グループによる話し合いや役割演技を通して考える活動（「その人が本当に望んでいること」）</p> <p>第2学年～ 主人公の看護師が、入院患者と接する際に目線を合わせることを大切であることに気付いたことを描いた物語を教材として、相手の心に寄り添いながら接していくためには、どのようなことを心掛けていけばよいかを考える活動（「心に寄りそう」）</p> <p>第3学年～ 過去の出来事が原因で言葉と感情を失った「苑子」に対して、友人ができることを積み重ねていった結果、言葉と感情を取り戻していった物語を教材として、自分が相手に対して何を大切に接することが望ましいのかを考える活動（「埴生の宿」）</p> <p>(2) 「相互理解、寛容」について</p> <p>第1学年～ 人間のよいところや悪いところなどを描いた落語の魅力について書かれた文章を教材として、日常生活の中で相手の気持ちや想像するとき、どのようなことを心掛けることが必要かを考える活動（「落語が教えてくれること」）</p> <p>第2学年～ 遠足の生活班で、協力し合つて行動するの良さを守ろうとする主人公が、自分とは異なる仲間との考えの良さに気付く物語を教材として、他の立場や考えを受け入れることの大切さを考える活動（「遠足で学んだこと」）</p> <p>第3学年～ 主人公であるタマゴマンが、仲間と好きな給食について話し合う物語を教材として、お互いの考え方をそれぞれ認め、活かしていくためには、どうしたらよいかを考える活動（「しあわせ」）</p>					

- 主として集団や社会との関わりに関することのうち、「家族愛、家庭生活の充実」及び「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。
- (1) 「家族愛、家庭生活の充実」について
- 第1学年～ 下校時に外靴がなくなっていたことから上履きで帰り、次の日に外靴を見つけた主人公が、不安に思う両親にどのように報告するか悩む物語を教材として、家族それぞれの立場や思いについて考える活動（「靴」）
- 第2学年～ 年老いた祖母を鬱陶しく思っていた主人公が、祖母の怪我をきっかけに祖母からの恩を思い出す物語を教材として、家族に感謝の気持ちを持ち、大切にすることを考える活動（「ごめんね、おばあちゃん」）
- 第3学年～ 自分の進路について父親に話すことができなかった主人公が、家を離れる前日に、父から励ましの言葉をもらった物語を教材として、家族がお互いを思いやることの大切さについて考える活動（「背筋をのばして」）
- (2) 「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」について
- 第1学年～ 成人してからも自分が生まれ育った村の一人として、村の発展のために努力していきたいと考える生徒の作文を教材として、ふるさとのために自分に何ができるかを考える活動（「ぼくのふるさと」）
- 第2学年～ 秋田県の竿灯祭りに参加し、観光客に祭りや地域のよさを伝えたいという経験について書かれた生徒の作文を教材として、自分の郷土の文化や伝統などについて誇れるものや、郷土のために自分にできることを考える活動（「祭りの夜」）
- 第3学年～ 島唄を習っている生徒が、島唄に込められた意味を知り、今後も歌い続けたいという思いについて書かれた作文を教材として、自分たちの郷土にはどのような心が息づいているかを考える活動（「島唄の心を伝えたい」）
- 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することのうち、「生命の尊さ」及び「自然愛護」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。
- (1) 「生命の尊さ」について
- 第1学年～ 日本で骨髓バンクを設立したボランティアの会の人々の取組について書かれた文章を教材として、今までに、命の大切さやありがたさを実感したことがあるかを振り返り、生命のかけがえのなさについて考える活動（「決断！ 骨髓バンク移植第一号」）
- 第2学年～ 14歳離れて生まれた妹に対する思いが書かれた生徒の作文を教材として、生命のかけがえのなさや生きる喜びを大切にするために、どのような気持ちが必要かを考える活動（「妹に」）
- 第3学年～ 誕生する命について書かれた文章、難破後に救出された物語、尊厳死について書かれた文章を教材として、生命について多面的、多角的に考える活動。（「生まれてきてくれてありがとう」「くちびるに歌をもて」「人間の命とは」）
- (2) 「自然愛護」について
- 第1学年～ 桜守の佐野藤右衛門さんの桜に対する考えと、東日本大震災からの復興に際して桜を植樹した人々の取組について書かれた文章を教材とし、自分たちと身近な自然との関係性について考える活動（「桜に集う人の思い」）
- 第2学年～ 越冬のためにシベリアから宮城県北部に飛来するマガンの生態や環境保護のために活動する中学生について書かれた文章を教材として、自然とどのように関わっていくことが大切かを考える活動（「冬の使者『マガン』」）
- 第3学年～ タンカーから流出した重油により被害を受けた日本海を元に戻すために活動するボランティアの人々の取組について書かれた文章を教材として、自分が関わっていけそうな自然保護活動について考える活動（「よみがえれ、日本海！」）

内容の構成・排列、分量等

- 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。
- ・ 言語活動については、各学年に、考えを深めるための話し合いの手順を示す「話し合いの手引き」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるように工夫されている。
 - ・ 問題解決的な学習については、各学年に、道徳的な問題の解決に向けて話し合うことができる教材を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面

	<p>的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習については、各学年に、役割演技による学習を示す「アクション」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫されている。 <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>※ Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」を表す。</p> <p>第1学年～ Aは36ページ、Bは30ページ、Cは67ページ、Dは40ページ、Eは16ページであり、総ページ数は189ページで、前回より4%増となっている。</p> <p>第2学年～ Aは30ページ、Bは37ページ、Cは72ページ、Dは45ページ、Eは13ページであり、総ページ数は197ページで、前回より4%増となっている。</p> <p>第3学年～ Aは35ページ、Bは33ページ、Cは78ページ、Dは38ページ、Eは13ページであり、総ページ数は197ページで、前回より4%増となっている。</p>
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年に、学期ごとに学習したことを振り返ることができる「自分の学びをふり返ろう」を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 各学年に、オリエンテーションで道徳科の基本的な学習の流れを示す「道徳の授業はこんな時間に」を配置し、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての生徒が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインに配慮するなど、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、北海道について「『どうせ無理』という言葉に負けない」で植松努氏の宇宙開発（第1学年）や「我、ここに生きる」で霧多布での地域医療（第2学年）などが取り扱われている。 ○ ICTの活用については、QRコード及び「D（デジタル）マーク」が示され、教材と関連する動画や画像、解説資料等により、生徒が興味・関心を高めて授業に取り組むことができるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、小学校道徳科で扱った教材を再掲載しており、中学生になって新たに感じたこと、考えたことを整理し、自分の成長を確認できるとともに、将来の進路や職業を選択するきっかけになる教材を掲載し、中学校卒業後への配慮がなされている。
本市生徒の学習の状況等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳的価値を多面的・多角的に考えることができるよう、各学年に道徳的な問題の解決に向けて話し合うことができる教材を配置するとともに、考えたことを書き、交流で活用する「『つぶやき』コーナー」欄を教材毎に設定するなどの工夫がなされている。 ○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深めることができるよう、道徳的価値を主体的に考えるためのテーマや発問「考えよう」を設定するとともに、自己を振り返るための発問「自分を見つめよう」を設定するなどの工夫がなされている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年ごとに本冊のみで構成されている。

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・702 道徳・802 道徳・902	中学道徳1 とびだそう未来へ 中学道徳2 とびだそう未来へ 中学道徳3 とびだそう未来へ
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 主として自分自身に関することのうち、「自主，自律，自由と責任」及び「向上心，個性の伸長」については，次のような学習活動を取り上げ，目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1)「自主，自律，自由と責任」について</p> <p>第1学年～スマートフォンに夢中になり，自分の希望で入部した吹奏楽部の活動についていけなくなった主人公が，友人から部活動をやめようとする誘われる物語を教材として，自分の決断に責任をもつことの大切さについて考える活動（「自分で決める」）</p> <p>第2学年～部活動に意欲的に取り組めていない主人公と早く集まり部活動の準備をする新一年生の行動の違いを描いた物語を教材として，先輩とはどんな存在であるべきかについて考える活動（「先輩」）</p> <p>第3学年～職場から逃げだして実家に戻った時に，父から言われた一言で職場に戻ることを決めた主人公を描いた物語を教材として，自ら決めたことを最後までやり通すことの大切さを考える活動（「父のひと言」）</p> <p>(2)「向上心，個性の伸長」について</p> <p>第1学年～イチロー選手のコメントやルーティンなど，小さなことを積み重ねる大切さについて書かれた文章を教材として，自分のよさを伸ばし夢に近づくために大切なことは，どのようなことなのかを考える活動（「まだ進化できる」）</p> <p>第2学年～時代劇の無名の斬られ役として主役を立てる演技に生涯をかけて徹してきた福本清三さんについて書かれた文章を教材として，生きがいを持ち，自分らしく生きる上で大切なことを考える活動（「五万回斬られた男・福本清三」）</p> <p>第3学年～インドの水くみ人が使っている2つの壺のそれぞれのよさを描いた民話を教材として，自分の長所，短所を見つめなおし，自分らしく生きるために大切なことは何かを考える活動（「ひび割れ壺」）</p> <p>○ 主として人との関わりに関することのうち、「思いやり，感謝」及び「相互理解，寛容」については，次のような学習活動を取り上げ，目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1)「思いやり，感謝」について</p> <p>第1学年～熊本地震の際，エレベーターの止まった高層マンションで，階段近くに椅子を置く配慮をする住民の取組について書かれた文章を教材として，隣人への思いやりや感謝について考える活動（「マンションの椅子」）</p> <p>第2学年～電車で席を譲る気持ちがあるのにできなかった中学生と，主人公と若者が互いに席を譲り合い笑顔になる2つの物語を教材として，思いやりの気持ちの表現を役割演技を通して考える活動（「譲る気持ちはあるのに……」）</p> <p>第3学年～貧しさの中，おばあさんからお釣りを多くもらった自責の念と，励ましてくれたのだという甘い考えが主人公の胸を苦しめ続けるという物語を教材として，他の人々に対し思いやりの心をもつ大切さについて考える活動（「足袋の季節」）</p> <p>(2)「相互理解，寛容」について</p> <p>第1学年～学校生活の様子を描いた挿絵や知らずに友人を傷つけた主人公を描いた漫画を教材として，いじりといじめの違いについて話し合い，相手の立場に立って接することの大切さについて考える活動（「『いじり』？『いじめ』？」）</p> <p>第2学年～出会った人の良い所を見つけ，まるごと好きになることを大切にしてきた筆者の生き方について書かれた文章を教材として，人と上手につき合うために大切なことは何かについて考える活動（「まるごと好きです」）</p> <p>第3学年～幼いときの病気が原因で人とは異なる容貌をもつ藤井さんの苦労や心の変化について書かれた文章を教材として，それぞれの個性や立場を尊重するために大切なことは何かについて考える活動（「あなたは顔で差別をしますか」）</p>			

	<p>○ 主として集団や社会との関わりに関するもののうち、「家族愛、家庭生活の充実」及び「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「家族愛、家庭生活の充実」について</p> <p>第1学年～ 年長いた祖母を鬱陶しく思っていた主人公が、祖母の怪我をきっかけに祖母からの恩を思い出す物語を教材として、家族に感謝の気持ちを持ち、大切に作る心について考える活動（「ごめんね、おばあちゃん」）</p> <p>第2学年～ 悪性腫瘍のために32歳で逝去した父親が二人の娘に宛てた手紙を教材として、父親がどのような気持ちで手紙を書いたかを考えるとともに、家族の幸せや自分にできることが何かについて考える活動（「飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ」）</p> <p>第3学年～ 歌う道徳講師、大野さんの曲の歌詞を聞き、中学生が自分の母の姿と重ねて涙することについて書かれた文章を教材として、家族への感謝の気持ちを持ち、家族を大切に作る心について考える活動（「テーブルの卵焼き」）</p> <p>(2) 「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」について</p> <p>第1学年～ 秩父地方で伝統的に作られてきた故郷の味である「すまんじゅう」を伝え残そうとすることについて書かれた作文を教材として、昔からある文化を守る大切さについて考える活動（「伝えたい味」）</p> <p>第2学年～ 伝統芸能である田植踊りが震災によって途切れたが、多くの支えで復活公演ができたことの感謝を述べた作文を教材として、伝統を守り、受け継いでいくことの大切さについて考える活動（「伝えるということ」）</p> <p>第3学年～ 博多祇園山笠に魅力を感じている「僕」が祭りに参加しているときの様子について書かれた文章を教材として、これから大切にしたい、守っていききたい郷土のよさについて考える活動（「昇き縄」）</p> <p>○ 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関するもののうち、「生命の尊さ」及び「自然愛護」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「生命の尊さ」について</p> <p>第1学年～ 終末期ケアを行う医療施設において、患者の心のケアを行ってきた著者の経験について書かれた文章を教材として、「よく生きる」ために大切なことは何かについて考える活動（「よく生きること、よく死ぬこと」）</p> <p>第2学年～ 障害を持って生まれた我が子の6年間の生活で起こった出来事や思い出について書かれた文章を教材として、「精いっぱい」生きるとは、どのように生きることなのかについて考える活動（「たったひとつのたからもの」）</p> <p>第3学年～ 内戦中のスーダンで、少女がハゲワシに襲われる直前に報道カメラマンが撮った写真と文章を教材として、報道カメラマンのとった行動や、かけがえのない命を守ることにについて考える活動（「ハゲワシと少女」）</p> <p>(2) 「自然愛護」について</p> <p>第1学年～ 世界文化遺産として登録された富士山に関わる歴史的な出来事や、環境保護について書かれた文章を教材として、身近な自然に親しみながらも保全していくことの大切さについて考える活動（「富士山を守っていくために」）</p> <p>第2学年～ 釧路湿原の環境保護活動が実り、ラムサール条約登録地になるとともに、国立公園となった経緯について書かれた文章を教材として、環境保護の大切さや、自分にできる環境保護にはどのようなものがあるかを考える活動（「釧路湿原を守れ」）</p> <p>第3学年～ サルに魅せられた写真家が、農作物を荒らすサルの駆除協力の依頼をされたことについて書かれた文章を教材として、人間が生活していくことと、自然を守ることとの関わりについて考える活動（「サルも人も愛した写真家」）</p>
<p>内容の構成・排列、</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動については、各学年に、考えを深めるための話合いの視点を示す「学びの道しるべ」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるように工夫されている。

分量等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決的な学習については、各学年に、道徳的な問題の解決に向けて話し合うことができる教材を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。 ・ 体験的な学習については、各学年に、役割演技や日常の体験を想起して話し合う活動を示す「やってみよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫されている。 <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>※ Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」を表す。</p> <p>第1学年～ Aは 43 ページ、Bは 41 ページ、Cは 71 ページ、Dは 40 ページ、Eは 13 ページであり、総ページ数は 208 ページで、前回より 7 % 増となっている。</p> <p>第2学年～ Aは 33 ページ、Bは 33 ページ、Cは 92 ページ、Dは 21 ページ、Eは 13 ページであり、総ページ数は 192 ページで、前回より 8 % 増となっている。</p> <p>第3学年～ Aは 23 ページ、Bは 30 ページ、Cは 89 ページ、Dは 37 ページ、Eは 13 ページであり、総ページ数は 192 ページで、前回より 8 % 増となっている。</p>
使用上の配慮等	<p>○ 各学年に、教材ごとに記入する「道徳の学びを記録しよう」や学期末や学年末に記入する「道徳の学びを振り返ろう」を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 各学年に、オリエンテーションで道徳科の基本的な学習の流れを示す「道徳科で学びを深めるために」を配置し、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 全ての生徒が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインに配慮するなど、使用上の便宜が図られている。</p>
指導上の配慮等	<p>○ 地域素材については、旭川市について「都道府県にゆかりのある人物と、その言葉」で三浦綾子（第2学年）、北海道について「カムイモシッとアイヌモシッ」でアイヌ民族（第3学年）などが取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については、QRコード及び「まなびリンク」マークが示され、情報活用により学びを深めたり充実させたりすることのできる外部ページへのリンクが掲載されるなど、生徒が興味・関心を高めて授業に取り組むことができるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携における指導については、中学校での学習にスムーズに移行できるように、第1学年の1～10までの教材は文字を大きくして読みやすくするとともに、第1学年の最初の教材を生命の誕生をたたえる明るく前向きな内容の教材にするなどの配慮がなされている。</p>
本市生徒の学習の状況等	<p>○ 道徳的価値を多面的・多角的に考えることができるよう、各学年に道徳的な問題の解決に向けて話し合うことができる教材を配置するとともに、異なる立場の考えや意見を取り入れた教材が配置するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深めることができるよう、学習過程とつながりをもたせた発問例「学びのしるべ」を設定するとともに、巻末に、学んだことを記録する欄「授業の記録」を設定するなどの工夫がなされている。</p>
その他	<p>○ 学年ごとに本冊のみで構成されている。</p>

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		38・光村	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・703 道徳・803 道徳・903	中学道徳1 きみがいちはんひかるとき 中学道徳2 きみがいちはんひかるとき 中学道徳3 きみがいちはんひかるとき
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 主として自分自身に関するもののうち、「自主，自律，自由と責任」及び「向上心，個性の伸長」については，次のような学習活動を取り上げ，目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「自主，自律，自由と責任」について</p> <p>第1学年～学校の物置のガラスを割ってしまったことを教師に正直に報告することができなかった生徒たちの物語を教材として，自分の行動に責任をもつことの大切さについて考える活動（「裏庭での出来事」）</p> <p>第2学年～インターネット上における匿名の書き込みがきっかけになって起こった生徒間の行き違いを描いた物語を教材として，自分の言動に責任をもつことの大切さについて考える活動（「許せないよね」）</p> <p>第3学年～周囲になじむことができない生徒と交友をもとうとしながら途中で投げ出してしまった生徒を描いた物語を教材として，自分の行動に責任をもつことの大切さについて考える活動（「三年目の『ごめんね』」）</p> <p>(2) 「向上心，個性の伸長」について</p> <p>第1学年～小学生の時から百人一首が得意であった主人公が，時間を掛けて力を付けてきた友人に負けた時の心情を描いた物語を教材として，自分のよさを伸ばすために大切なことは何かについて考える活動（「カメは自分を知っていた」）</p> <p>第2学年～自分の得意なことが見付からず，将来の夢も見えずに自信を失っている主人公が，優しさをもっていることを認められ喜びを感じた物語を教材として，自分を見つめ直し，自分のよさについて考える活動（「優しさの光線」）</p> <p>第3学年～「巧言令色少なし仁」など，「論語」に示されている7つの言葉について書かれた文章を教材として，人の生き方について語った先人の言葉を自分の生き方にどのように活かすことができるかについて考える活動（「先人の言葉『論語』」）</p> <p>○ 主として人との関わりに関するもののうち，「思いやり，感謝」及び「相互理解，寛容」については，次のような学習活動を取り上げ，目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「思いやり，感謝」について</p> <p>第1学年～中学生が高齢者に電車で席を譲ったときに起こったトラブルを記した投稿と，その投稿に対する複数の立場からの反響を教材として，他者への思いやりについて考える活動（「席を譲ったけれど」）</p> <p>第2学年～日常の生活の中で嫌なものばかりが目についていた主人公が，見知らぬ人に助けられたことをきっかけに世間の人の良い所にたくさん目が行くようになった漫画を教材として，人への感謝や思いやりについて考える活動（「気づかなかったこと」）</p> <p>第3学年～地区大会前に骨折するという挫折を乗り越えて野球部のキャプテンとしての役割を果たす生徒の物語を教材として，思いやりや感謝の念をもって他者に向き合うことの大切さについて考える活動（「背番号10」）</p> <p>(2) 「相互理解，寛容」について</p> <p>第1学年～相手の顔の見えないインターネット上でのコミュニケーションの難しさに気付いた主人公を描いた物語を教材として，異なる立場の者同士のコミュニケーションの取り方や寛容さについて考える活動（「言葉の向こうに」）</p> <p>第2学年～昔話「桃太郎」を鬼の子どもの視点から捉えた阪田寛夫の詩「鬼の子守歌」を教材として，立場の異なる者どうしが，互いを理解し合うときに必要なことについて考える活動（『「桃太郎」の鬼退治』）</p> <p>第3学年～主君殺しの贖罪のために隧道づくりの難事業に取り組む僧に対して復讐を企てる若者の葛藤を描いた物語を教材として，「寛容な心」とは，どんな心なのかについて考える活動（「恩讐の彼方に」）</p>			

- 主として集団や社会との関わりに関することのうち、「家族愛，家庭生活の充実」及び「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」については，次のような学習活動を取り上げ，目標を達成できるようになっている。
- (1) 「家族愛，家庭生活の充実」について
- 第1学年～単心室症という心臓病を患う14歳の少女が，3度目の手術の直前に母親に宛てて感謝の気持ちを書いた手紙を教材として，自分が家族の一員としてできることについて考える活動（「三百六十五×十四回分の『ありがとう』」）
- 第2学年～難聴の両親から生まれた2歳の子どもが，両親には音楽が聞こえないが，写真家である父親にはカメラがあることを意識したことについて書かれた文章を教材として，お互いに異なる存在である家族のつながりについて考える活動（「異なり記念日」）
- 第3学年～世界の様々な国や文化によって家族の捉え方や家庭の形態が，多様でありながら共通する部分もあることについて書かれた文章を教材として，家族とはどのようなものかを考える活動（「家族って？ 家庭って？」）
- (2) 「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」について
- 第1学年～重要無形文化財の輪島塗の特徴や輪島塗の技術を継承するための取組について書かれた文章を教材として，郷土に根ざした伝統と文化を継承していくことの大切さについて考える活動（「なおしもん」）
- 第2学年～新潟県の伝統行事である「村上大祭」や「町屋の人形さま巡り」について書かれた文章を教材として，自分の住む地域の伝統や文化を守り，発展させるために何ができるかについて考える活動（「私の町」）
- 第3学年～博多の伝統や文化の復活や発展，継承に中心的な役割を果たした博多出身の西島雅幸さんの生き方が，同郷の人たちに受け継がれていることが書かれた文章を教材として，郷土を愛する心について考える活動（「好いとっちゃん，博多」）
- 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関することのうち，「生命の尊さ」及び「自然愛護」については，次のような学習活動を取り上げ，目標を達成できるようになっている。
- (1) 「生命の尊さ」について
- 第1学年～「多発性骨髄腫」により余命が短いことを知った老人が自宅で死を迎えようと決意し，それを見守ろうとする家族や医師たちの取組を描いた文章を教材として，尊厳ある生と死の在り方について考える活動（「エルマおばあさんからの『最後の贈りもの』」）
- 第2学年～誰もが経験する大切な人との「別れ」を題材とした祖父から孫に向けて書かれた詩を教材として，「泣いてもいいけど，泣きすぎてはいけない」という言葉に込められた思いについて考える活動（「泣きすぎてはいけない」）
- 第3学年～東日本大震災の被災者への支援プロジェクト（旭川大学大学院の「希望の『君の椅子』」プロジェクト）について書かれた文章を教材として，家族の大切さ，生命の尊さについて考える活動（「あの日 生まれた命」）
- (2) 「自然愛護」について
- 第1学年～観光客が野生のヒグマになにげなく与えてしまった1本のソーセージが野生のヒグマの生活環境を狂わせ射殺するに至らせた物語を教材として，自然と共生することの大切さについて考える活動（「『ソーセージ』の悲しい最後」）
- 第2学年～富士山のガイドをする近藤光一さんが，富士山や周辺の自然環境に触れてもらうことを大切にしているという考えについて書かれた文章を教材として，環境保全のために自分たちにできることについて考える活動（「僕の職場は富士山です」）
- 第3学年～身近に使っているストローやレジ袋に含まれているマイクロプラスチックが，海洋環境において大きな問題となっている物語を教材として，自然環境を大切にすることはどういうことかを考える活動（「海とストロー」）
- 内容の構成・排列については，次のような工夫がなされている。
- ・ 言語活動については，各学年に，多面的・多角的な見方や考え方による話し合いの視点を示す「見方を変えて」を配置し，生徒が多様な感じ方や

<p>内容の構成・ 排列、 分量等</p>	<p>考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるように工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題解決的な学習については、各学年で、道徳的な問題を解決するためにどうすればよいかを考える発問を示す教材を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。 体験的な学習については、各学年に、道徳的行為に関する体験的な学習を示す「人と人との関係づくり」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫されている。 <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>※ Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」を表す。</p> <p>第1学年～ Aは30ページ、Bは42ページ、Cは59ページ、Dは33ページ、Eは20ページであり、総ページ数は184ページで、前回より18%減となっている。</p> <p>第2学年～ Aは43ページ、Bは34ページ、Cは62ページ、Dは33ページ、Eは20ページであり、総ページ数は192ページで、前回より14%減となっている。</p> <p>第3学年～ Aは41ページ、Bは30ページ、Cは65ページ、Dは30ページ、Eは26ページであり、総ページ数は192ページで、前回より17%減となっている。</p>
<p>使用上の 配慮等</p>	<p>○ 各学年に、教材ごとに記入する「学びの記録」や1年間の学びを振り返る「道徳の学びを振り返ろう」を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 各学年に、教材ごとに多面的・多角的に考えを広げたり、深めたりするための学習のめあてを示す「てびき」を配置し、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 全ての生徒が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインに配慮するなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の 配慮等</p>	<p>○ 地域素材については、旭川市について「あの日 生まれた命」で旭川大学大学院「君の椅子」プロジェクト（第3学年）、北海道について「アイヌの歌を歌いたい」でアイヌ文化伝承（第2学年）などが取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については、デジタルコンテンツを活用できる教材にQRコードが示され、授業の導入や発展的な学習として活用できる朗読や動画により、生徒が興味・関心を高めて授業に取り組むことができるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携による指導については、小学校で感じたことや考えたことと、中学生になって新たに感じたことや考えたこととを比べ、自分の成長を確かめることができるよう、各学年最終教材に小学校道徳科で扱った教材を再掲載するなどの配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<p>○ 道徳的価値を多面的・多角的に考えることができるよう、教材毎に他の視点や立場から道徳的価値を考える「見方を変えて」で主発問を掲載するとともに、道徳的な問題を解決するためにどうすればよいかを考える教材「深めたいむ」を配置するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深めることができるよう、教材ごとに道徳的価値について理解や自覚を深めるための「考えよう」で主発問を設定するとともに、学びのテーマに応じて1年間を3つのシーズンに分けるなどの工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	<p>○ 学年ごとに本冊のみで構成されている。</p>

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		116・日文	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・704, 705 道徳・804, 805 道徳・904, 905	中学道徳 あけを生きる1, 中学道徳 あけを生きる1 道徳ノート 中学道徳 あけを生きる2, 中学道徳 あけを生きる2 道徳ノート 中学道徳 あけを生きる3, 中学道徳 あけを生きる3 道徳ノート
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 主として自分自身に関することのうち、「自主、自律、自由と責任」及び「向上心、個性の伸長」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「自主、自律、自由と責任」について</p> <p>第1学年～学校の物置のガラスを割ってしまったことを教師に正直に報告することができなかつた生徒たちの物語を教材として、自分の行動に責任をもつことの大切さについて考える活動（「裏庭のできごと」）</p> <p>第2学年～スマートフォンをもっていなかったため友人とうまく待ち合わせできなかつた主人公が、スマートフォンは高校生になってからと自分で決めたことを思い返した物語を教材として、自分で判断して行動することについて考える活動（「五月の風－カナ－」）</p> <p>第3学年～単身赴任の父に代わって、急に決まった町内会の共同作業にしぶしぶ参加した主人公が、周囲から声をかけられ、いつしか意欲的に働き、翌朝は自分から挨拶をした物語を教材として、自ら考え行動することについて考える活動（「町内会デビュー」）</p> <p>(2) 「向上心、個性の伸長」について</p> <p>第1学年～トマトもメロンもそれぞれの命を精一杯生きているという相田みつをさんの詩を教材として、自分のよさを生かして生きるためには、どんなことが大切なのかについて考える活動（「トマトとメロン」）</p> <p>第2学年～「人は誰も『ありのままの自分』と『見てもらいたい自分』の2つを持っている」ということについて書かれた漫画と文章を教材として、自分らしく生きるために大切なことは何かについて考える活動（『自分』ってなんだろう）</p> <p>第3学年～中学校最後の大会でふがいない成績に終わった主人公が、3年間レギュラーになれなかつた友人の言葉をきっかけに、自分を振り返る物語を教材として、努力を無駄にしないために、どのように生活すればよいか考える活動（「新しい夏のはじまり」）</p> <p>○ 主として人との関わりに関することのうち、「思いやり、感謝」及び「相互理解、寛容」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「思いやり、感謝」について</p> <p>第1学年～主人公が、旅先のバスの中での運転手と乗客のやりとりから「ありがとう」の言葉の不思議な力に気付き、自分も進んでも感謝の気持ちを伝えようとする物語を教材として、言葉の持つ力やその伝え方について考える活動（「人のフリみて」）</p> <p>第2学年～夜遅くまでついている店の明かりが、帰りの遅い自分のためであったことを知った主人公と店のおばさんとの交流する物語を教材として、相手の立場に立って思いやることの大切さについて考える活動（「夜のくだもの屋」）</p> <p>第3学年～東日本大震災で避難所生活を続けている人々に温かい塩むすびを食べてもらおうと働く調理場の人たちの思いを塩むすびの温かさから感じる主人公の姿を描いた物語を教材として、感謝の気持ちをもつことの大切さについて考える活動（「塩むすび」）</p> <p>(2) 「相互理解、寛容」について</p> <p>第1学年～活動をするとき「余り」となることを悩んでいる私と、同じ状況を回避するために行動する僕が「余り」を何事もなく受け入れている友人に「負けた」と感じた物語を教材として、寛容とは何かを考える活動（「自分だけ『余り』になってしまう・・・」）</p> <p>第2学年～老人ホームにおけるボランティア活動で、「老人は赤ん坊じゃない」と友人に言われたコトコが、園長の田島さんの話を聞いて涙した物語を教材として、分かり合うことの大切さや難しさについて考える活動（「コトコの涙」）</p> <p>第3学年～相手の顔の見えないインターネット上でのコミュニケーションの難しさに気付いた主人公を描いた物語を教材として、異</p>			

なる立場の者同士のコミュニケーションの取り方や寛容さについて考える活動（「言葉の向こうに」）

- 主として集団や社会との関わりに関することのうち、「家族愛、家庭生活の充実」及び「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。
 - (1) 「家族愛、家庭生活の充実」について
 - 第1学年～ 老化が進み介護を要する祖母から逃げ出した私が、母の話や老人ホームで出会ったお年寄りの言葉や涙から、家族の一員として祖母を支えていこうとする物語を教材として、家族が支え合うことの大切さについて考える活動（「家族と支え合うなかで」）
 - 第2学年～ 母から姉の結婚式に出ないでと言われた体の不自由な主人公が、姉の希望で結婚式に出席し、主人公が縫ったゆかたを着た姉から「妹は私の誇り」と紹介され明るくなった物語を教材として、家族を大切に作る心について考える活動（「きいちゃん」）
 - 第3学年～ 物忘れが目立つようになった祖母が書いたノートを読み、祖母の家族に対する思いを知った主人公の思いを描いた物語を教材として、家族を敬愛することの大切さについて考える活動（「一冊のノート」）
 - (2) 「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」について
 - 第1学年～ 東日本大震災によって途切れてしまった郷土芸能を復活させるために活動する中学生たち活動について書かれた文章を教材として、郷土の伝統や文化をつないでいくことの大切さについて考える活動（「震災を乗り越えてー復活した郷土芸能ー」）
 - 第2学年～ 地元の夏祭りが中止になってしまったため、隣町の夏祭りに参加した主人公が、大人も子どもも協力している姿に考えさせられる物語を教材として、地域の伝統をつないでいくために大切なことについて考える活動（「和樹の夏祭り」）
 - 第3学年～ 稲むらに放った火の明かりで村人たちの避難を誘導し、襲ってくる津波から守った儀兵衛が、その後、巨額の資材を投じて津波を防ぐ防波堤をつくった物語を教材として、郷土を思う心の大切さについて考える活動（「『稲むらの火』余話」）
- 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することのうち、「生命の尊さ」及び「自然愛護」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。
 - (1) 「生命の尊さ」について
 - 第1学年～ 死を待つしかない人々のために死の瞬間だけでも人間らしくさせてあげたいと活動するマザーテレサの生き方について書かれた文章を教材として、生まれてきた命の大切さについて考える活動（「あふれる愛」）
 - 第2学年～ 引退した盲導犬を育てるボランティアをやめようと思った西田さんが、盲導犬を必要としている人の声などを思い出し、続けていこうと決心したことについて書かれた文章を教材として、支え合うことの大切さについて考える活動（「最後のパートナー」）
 - 第3学年～ 臓器提供について「家族のために受けない」という考えと、「娘をドナーにはできない」という考えが書かれた文章を教材として、自分の生命の大切さと他の生命を尊重することについて考える活動（「臓器ドナー」）
 - (2) 「自然愛護」について
 - 第1学年～ 栃木県の植物園において、不可能と言われた大藤の移植に取り組んだ日本初の女性樹木医の活動について書かれた文章を教材として、自然と人間が共生するために、自分ができることが何かについて考える活動（「木の声を聞く」）
 - 第2学年～ 開拓によって森が消え砂漠化した襟裳の森の再生のために、長年に渡り活動した人々の努力について書かれた文章を教材として、自然とどのように関わっていくことが大切かについて考える活動（「よみがえれ へりもの森」）
 - 第3学年～ 滋賀県にある「川端」の文化がメディアで紹介されたことで起こった問題とその対策に取り組んだ地元の人々について書かれた文章を教材として、人間と自然の共生の在り方について考える活動（「『川端』のある暮らし」）

<p>内容の構成・排列、分量等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動については、各学年の別冊に、自分や友達の考え、道徳的価値の理解や他者から学んだ内容を記入する欄を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるように工夫されている。 ・問題を解決的な学習については、道徳的な問題の解決に向けた話合いの手順を示す「学習の進め方」を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。 ・体験的な学習については、各学年に、道徳的行為に関する体験的な学習の流れを示した「学習の進め方」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている <ul style="list-style-type: none"> ※ Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」を表す。 第1学年～ Aは37ページ、Bは41ページ、Cは78ページ、Dは41ページ、Eは34ページであり、総ページ数は231ページで、前回と増減はない。 第2学年～ Aは32ページ、Bは39ページ、Cは81ページ、Dは43ページ、Eは36ページであり、総ページ数は231ページで、前回と増減はない。 第3学年～ Aは31ページ、Bは34ページ、Cは96ページ、Dは39ページ、Eは31ページであり、総ページ数は231ページで、前回と増減はない。
<p>使用上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の別冊に、印象に残った学習とその理由を記入する「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 各学年に、オリエンテーションで道徳科の基本的な学習の流れを示す「道徳科で学ぶこと」や「道徳科での学び方」を配置し、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての生徒が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインに配慮するなど、使用上の便宜が図られている。
<p>指導上の配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、北海道について「よみがえれ、えりもの森」でえりも町の砂漠化した故郷の再生（第2学年）や「足袋の季節」で小樽郵便局での後悔と自責の念（第2学年）などが取り扱われている。 ○ ICTの活用については、QRコード及びインターネットへリンクする「マーク」が示され、授業の導入や展開で活用できる参考動画や関連画像及びクイズにより、生徒が興味・関心を高めて授業に取り組むことができるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、特にキャリア教育の理念に配慮し、第1学年では中学生になったの自己理解、第2学年では職場体験等の社会参画、第3学年では公共の精神等に配慮した教材の選定と配列を行い、小学校から高等学校までの連携を意識した構成の配慮がなされている。
<p>本市生徒の学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳的価値を多面的・多角的に育むことができるよう、考え議論し、ねらいに迫るための具体的な発問例「考えてみよう」を設定するとともに、各学年の別冊「道徳ノート」に、自分や友達の多様な考えを記入する欄を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深めることができるよう、教材ごとに学んだことを前向きに生かすための具体的な発問例「自分に+1」を設定するとともに、「問題解決的な学習」や「体験的な学習」に適した教材には、「学習の進め方」を設定するなどの工夫がなされている。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年ごとに本冊と別冊で構成されている。

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		224・学研	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・706 道徳・806 道徳・906	新・中学生の道徳 明日への扉1 新・中学生の道徳 明日への扉2 新・中学生の道徳 明日への扉3
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 主として自分自身に関することのうち、「自主，自律，自由と責任」及び「向上心，個性の伸長」については，次のような学習活動を取り上げ，目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「自主，自律，自由と責任」について</p> <p>第1学年～学校の物置のガラスを割ってしまったことを教師に正直に報告することができなかった生徒たちの物語を教材として，自分の行動に責任をもつことの大切さについて考える活動（「裏庭での出来事」）</p> <p>第2学年～松井秀喜さんが子どもの頃に父親から他人の悪口を言わないように指導されたことを続けていることに心を動かされた著者の思いを描いた文章を教材として，著者が松井氏から教えられたことについて考える活動（「父との約束」）</p> <p>第3学年～子どもの頃，オムライスを食べたいという思いから仮病を使って母親に嘘をついた主人公を描いた物語を教材として，嘘を許さないという母親の言葉が主人公の心にずっと残っている理由を考える活動（「思い出のオムライス」）</p> <p>(2) 「向上心，個性の伸長」について</p> <p>第1学年～イチロー選手の足跡や言葉について取り上げた文章を教材として，イチロー選手の努力する気持ちを支えるものが何か考えることを通して，自分自身の長所について考える活動（「イチローの軌跡」）</p> <p>第2学年～サッカー選手から審判に目標を変更した山内さんの生き方を描いた話を教材として，個性を伸ばして充実した生き方を追究するために大切なことは何かについて考える活動（「ジャッジとチャレンジ」）</p> <p>第3学年～伊調馨選手がリオオリンピックで金メダルを獲得した際に「自己採点は30点です。」と語ったことについて書かれた文章を教材として，価値ある自己の実現に向けて取り組むことの大切さについて考える活動（「三十点の金メダル」）</p> <p>○ 主として人との関わりに関することのうち、「思いやり，感謝」及び「相互理解，寛容」については，次のような学習活動を取り上げ，目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「思いやり，感謝」について</p> <p>第1学年～バスの中で赤ん坊が泣いたため，バスを降りようとした母親に，運転手が降りる必要が無いことを呼び掛けた対応を教材として，相手の立場や気持ちを配慮することの大切さについて考える活動（「バスと赤ちゃん」）</p> <p>第2学年～交通事故に遭って学校を休んでいた主人公を励ますためにクラス全員が協力して旗をつくった物語を教材として，思いやりの心をもって人と接することの大切さについて考える活動（「旗」）</p> <p>第3学年～「ありがとう」に込められた思いの深さについて書かれた，谷川俊太郎氏の詩を教材として，「ありがとう。」と言うときや言われたときの言葉に込められた思いについて考える活動（「『ありがとう。』の不思議な力」）</p> <p>(2) 「相互理解，寛容」について</p> <p>第1学年～俳優の森繁久彌さんが，自身の芝居を鑑賞していた全盲の観客に感謝したときの出来事について書かれた文章を教材として，寛容の心をもって謙虚に他に学び，自らを高めることの大切さについて考える活動（「ふと目の前に 森繁久彌」）</p> <p>第2学年～相手の顔の見えない SNS 上でのコミュニケーションの難しさに気付いた主人公を描いた文章を教材として，異なる立場の者同士のコミュニケーションの取り方や寛容さについて考える活動（「つい言い過ぎて」）</p> <p>第3学年～俳句大会で入選することができずに，入選した友人の作品のよさを感じることができなかった主人公を描いた物語を教材として，表彰された友だちに自然と笑顔を返すことができた理由を考える活動（「どうして？」）</p>			

	<p>○ 主として集団や社会との関わりに関するもののうち、「家族愛，家庭生活の充実」及び「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」については，次のような学習活動を取り上げ，目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「家族愛，家庭生活の充実」について</p> <p>第1学年～祖母が作った弁当を捨ててしまった主人公が，成人後に亡くなった祖母の優しさに気付いたことを描いた物語を教材として，家族の一員として，自分にできることが何かについて考える活動（「黒い弁当」）</p> <p>第2学年～母の顔のやけどができた理由が自分を守るためであったことを知った主人公の心情を描いた物語を教材として，自分が家族の中でどのような立場であるかについて考える活動（「美しい母の顔」）</p> <p>第3学年～物忘れが目立つようになった祖母が書いたノートを読み，祖母の家族に対する思いを知った主人公の思いを描いた物語を教材として，家族を敬愛することの大切さについて考える活動（「一冊のノート」）</p> <p>(2) 「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」について</p> <p>第1学年～東日本大震災後，被災した集会場の掲示板を修理する中学生を描いた物語を教材として，地域の一員としての自覚をもって進んで郷土のためにできることについて考える活動（「壊れた掲示板」）</p> <p>第2学年～明治時代に荒川の堤沿いの沼田村に住んでいた人々が，自分たちで資金を出し合い，植樹を行ったことにより，五色桜の桜並木を作り上げた話を教材として，進んで郷土の発展に努めることの大切さについて考える活動（「五色桜」）</p> <p>第3学年～女性初のねぶた師である北村麻子さんが，苦しみや悩みをもちながらもねぶたの伝統と歴史を受け継ごうとする姿を描いた文章を教材として，自分の郷土について，どのような思いをもっているかを考える活動（「ねぶたを夢見て」）</p> <p>○ 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関するもののうち，「生命の尊さ」及び「自然愛護」については，次のような学習活動を取り上げ，目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「生命の尊さ」について</p> <p>第1学年～自分の子どもに向かって，妊娠中のつらさや誕生を待ち望む思い，我が子に出会えた喜びなどのエピソードを語る母親の思いを描いた物語を教材として，母親の子どもに対する思いを考える活動（「あなたに」）</p> <p>第2学年～天然痘から人々を守るために，安全な予防法である牛痘種痘法を広めるために活動した緒方洪庵の取組を描いた物語を教材として，他の生命を大切にすることについて考える活動（「絶やしてはならない 緒方洪庵」）</p> <p>第3学年～余命一年半と医師から宣告された渡部成俊氏が，葛藤しながらも命の大切さについて講演を続けたことを描いた文章を教材として，余命が少ない中で，講演を行っていた渡部氏を支えていた思いについて考える活動（「余命ゼロ 命のメッセージ」）</p> <p>(2) 「自然愛護」について</p> <p>第1学年～特別天然記念物であるトキの保護と繁殖についての取組や，トキが住める環境づくりについて書かれた文章を教材として，自然と共生することの大切さについて考える活動（「トキのいる里をもう一度」）</p> <p>第2学年～無農薬でリンゴを栽培することに挑戦した木村秋則さんの取組や考え方について書かれた文章を教材として，肥料や農薬を使わずにリンゴを育てる木村さんが訴えたいことは何かについて考える活動（「リンゴが教えてくれたこと」）</p> <p>第3学年～絶滅危惧種に指定されているマウンテンゴリラの生態や生息数，その保護活動について書かれた文章を教材として，環境問題を解決するために，自然とどう関わればよいかを考える活動（「赤道直下にすむマウンテンゴリラ」）</p>
<p>内容の構成・排列，分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については，次のような工夫がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動については，各学年に，考えを深めるための話合いの視点を示す「話し合おう」を配置し，生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で，考えを深め，判断し，表現する力などを育むことができるように工夫されている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習については、各学年に、道徳的な問題の解決に向けた視点を示す「見つけよう」を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。 ・体験的な学習については、各学年に、役割演技による学習を示す「やってみよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫されている。 <p>○ 内容の分量については、次のようになっている</p> <p>※ Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」を表す。</p> <p>第1学年～ Aは36ページ、Bは34ページ、Cは60ページ、Dは32ページ、Eは21ページであり、総ページ数は183ページで、前回より2%増となっている。</p> <p>第2学年～ Aは44ページ、Bは32ページ、Cは60ページ、Dは38ページ、Eは21ページであり、総ページ数は195ページで、前回より6%増となっている。</p> <p>第3学年～ Aは38ページ、Bは38ページ、Cは60ページ、Dは36ページ、Eは23ページであり、総ページ数は195ページで、前回より6%増となっている。</p>
使用上の配慮等	<p>○ 各学年に、自分を見つめる「マイプロフィール」や心の成長を振り返る「心の四季」を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 各学年に、オリエンテーションで道徳科の基本的な学習の流れを示す「考えを深める四つのステップ」を配置し、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 全ての生徒が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインに配慮するなど、使用上の便宜が図られている。</p>
指導上の配慮等	<p>○ 地域素材については、北海道について「鳥のように空を飛びたい 高梨沙羅」で高梨沙羅のたゆまぬ努力（第2学年）や「町工場から宇宙へ」で植松努の宇宙開発（第3学年）などが取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については、QRコード及び「QRコードマーク」が示され、学習に関連する写真や動画等のインターネット上の補助教材により、生徒が興味・関心を高めて授業に取り組むことができるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携による指導については、第1学年教科書の巻頭において「新しい扉を開く」というコーナーが設けられており、中学校に進学し、これからの自分の生き方について考えることができるよう、配慮がなされている。</p>
本市生徒の学習の状況等	<p>○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、視点や観点を変えて考える2つの教材を連続して掲載するユニット学習を構成するとともに、教材の内容項目に即した関連情報を提示する特設ページ「クローズアッププラス」を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深めることができるよう、教材ごとに4つのステップの学習及び発問例を設定するとともに、様々な分野で活躍している人物や後世に名を遺した偉人の生き方に触れる教材を配置するなどの工夫がなされている。</p>
その他	<p>○ 学年ごとに本冊のみで構成されている。</p>

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		232・廣あかつき	第1学年 第2学年 第3学年	道徳・707, 708 道徳・807, 808 道徳・907, 908	中学生の道徳 自分を見つける1, 中学生の道徳ノート 自分を見つける1 中学生の道徳 自分を考える1, 中学生の道徳ノート 自分を考える2 中学生の道徳 自分をのぼす3, 中学生の道徳ノート 自分をのぼす3
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 主として自分自身に関することのうち、「自主、自律、自由と責任」及び「向上心、個性の伸長」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「自主、自律、自由と責任」について</p> <p>第1学年～学校の物置のガラスを割ってしまったことを教師に正直に報告することができなかった生徒たちの物語を教材として、自分の行動に責任をもつことの大切さについて考える活動（「裏庭のできごと」）</p> <p>第2学年～動物園の正規職員の採用試験に落ちた主人公が絶望感から向かった故郷で父親から掛けられた言葉をきっかけに動物園に戻ることを決めた物語を教材として、自ら決めたことをやり通すことについて考える活動（「お前のカワソウがさびしがっているぞ」）</p> <p>第3学年～本人に無断で友人に送った画像が拡散したことにより、友人を傷つけてしまったことを知る主人公を描いた物語を教材として、情報社会における自由と責任について考える活動（「ピヨ子」）</p> <p>(2) 「向上心、個性の伸長」について</p> <p>第1学年～脚本家の道に行き詰まっていた主人公が、「才能を作ることだってできるのさ」という父親の言葉に勇気付けられたことについて書かれた文章を教材として、自分が作り上げたい「よさ」は何かについて考える活動（「木箱の中の鉛筆たち」）</p> <p>第2学年～万年脇役の役者が、与えられた虎の役を苦々しく思いながら、息子と訪れた動物園での虎の姿から役者魂に目覚め、舞台上で大喝采を浴びる物語を教材として、自分を輝かせて生きるために大切なことは何かについて考える活動（「虎」）</p> <p>第3学年～「きっちり階段を上っていくためには、『夢』と呼べるような大きな目標だけでは足りません。」と著書に著す松井秀喜さんについて書かれた文章を教材として、向上心とは何なのか考える活動（「ぶれない心－松井秀喜－」）</p> <p>○ 主として人との関わりに関することのうち、「思いやり、感謝」及び「相互理解、寛容」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「思いやり、感謝」について</p> <p>第1学年～交通事故に遭って学校を休んでいた主人公を励ますためにクラス全員が協力して旗をつくった物語を教材として、思いやりの心をもって人と接することの大切さについて考える活動（「旗」）</p> <p>第2学年～すでに亡くなった両親に宛てて手紙を送った一郎の心情を思い、手紙を雪深い沼が原の墓地に届け読み上げる源さんを描いた物語を教材として、人を思いやる心の大切さについて考える活動（「地図のある手紙」）</p> <p>第3学年～学校の仕事を残して夜汽車で出掛けなければならない先生の心情を思いやって、仕事が終わったかのように学校中の電気を消して見送った先生方の物語を教材として、本当の思いやりとは、どんなことかを考える活動（「月明かりで見送った夜汽車」）</p> <p>(2) 「相互理解、寛容」について</p> <p>第1学年～相手の顔の見えないインターネット上でのコミュニケーションの難しさに気付いた主人公を描いた物語を教材として、異なる立場の者同士のコミュニケーションの取り方や寛容さについて考える活動（「言葉の向こうに」）</p> <p>第2学年～シカ猟によって鉛弾が残ったシカ肉を食べたオオワシの鉛中毒死問題に取り組む獣医師とハンターが、互いに理解し合っていく物語を教材として、相互理解の大切さについて考える活動（「野生の猛禽を守るために」）</p> <p>第3学年～好きになれなかった寺の和尚が、実は主人公が亡くした娘のことを生前から気に掛けてくれていた事実を知り、和尚に対する気持ちが変わった物語を教材として、寛容の心をもつために大切なことが何かを考える活動（「山寺のびわの実」）</p>			

- 主として集団や社会との関わりに関することのうち、「家族愛、家庭生活の充実」及び「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。
- (1) 「家族愛、家庭生活の充実」について
- 第1学年～母の顔のやけどができた理由が自分を守るためであったことを知った主人公の心情を描いた物語を教材として、自分が家族の中でどのような立場であるかについて考える活動（「美しい母の顔」）
- 第2学年～物忘れが目立つようになった祖母が書いたノートを読み、祖母の家族に対する思いを知った主人公の思いを描いた物語を教材として、家族を敬愛することの大切さについて考える活動（「一冊のノート」）
- 第3学年～ひたむきに働く父親の姿に誇らしさを感じながらも、父親の職業へのこだわりを抱いていた主人公が、父親の主人公に対する思いに触れ、心を震わせた物語を教材として、家族の一員として、家族の愛にどう応えていくかを考える活動（「スダチの苗木」）
- (2) 「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」について
- 第1学年～様々な困難を乗り越えて半世紀以上も続いている長野県飯田東中学校のりんご栽培について書かれた文章を教材として、自分の住む地域のシンボルやそれを維持するために自分はどうしているかについて考える活動（「アップルロード作戦」）
- 第2学年～東日本大震災によって途切れてしまった地域伝統の相馬野馬追の復活に尽力した人たちの思いと葛藤について書かれた文章を教材として、郷土の伝統と文化を尊重することについて考える活動（「相馬野馬追の季節」）
- 第3学年～東日本大震災で津波に流された女川町の生徒達が、自分たちで町を支えたいと行動を起こし「いのちの石碑」を建てたことについて書かれた文章を教材として、郷土を愛し、その発展に努めることの大げさについて考える活動（「千年先のふるさとへ」）
- 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することのうち、「生命の尊さ」及び「自然愛護」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。
- (1) 「生命の尊さ」について
- 第1学年～赤ちゃんが生まれたときに初めて出す声である「産声」など、赤ちゃんの「生きようとする力」を教材として、この世に生まれてきたことや、今、生きていることについて考える活動（「あなたの『生きようとする力』」）
- 第2学年～母の死を知らされた主人公が、主人公の歌が聞きたいという母の最期のメッセージを受けとめ、自分の人生に覚悟を決める物語を教材として、生命のかけがえのなさについて考える活動（「天使の舞い降りた朝」）
- 第3学年～余命宣告されながら娘たちの卒業までは生きていたいと願い生き抜いた母の姿と、その母が最後の力を振り絞って作ったお弁当を手にした娘たちの思いにふれた担当医師の物語を教材として、生きることの意味について考える活動（「誰かのために」）
- (2) 「自然愛護」について
- 第1学年～開発のために緑を失った祖国ケニアのために「グリーンベルト運動」を続けたマータイさんについて書かれた文章を教材として、自然を保護することの大げさについて考える活動（「あのハチドリのようにーワンガリ・マータイー」）
- 第2学年～樹齢七千年の老木であるはずの縄文杉が今なお青々とした葉を付け、びっしりと実を付ける姿に美しい生き方を感じ取る主人公の物語を教材として、自然の崇高さや自然を愛する心について考える活動（「樹齢七千年の杉」）
- 第3学年～開拓によって森が消え砂漠化した襟裳の森の再生のために、長年に渡り活動した人々の努力を描いた文章を教材として、人間の営みと自然の営みの関係について考える活動（「襟裳のこと」）

<p>内容の構成・ 排列、 分量等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動については、各学年の別冊に、感じたことや考え、道徳的価値の理解を記入する欄を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるように工夫されている。 ・問題解決的な学習については、各学年に、道徳的な問題の解決に向けて話し合うことができる教材を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。 ・体験的な学習については、各学年に、役割演技による学習に取り組むことができる教材を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ※ Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」を表す。 第1学年～ Aは43ページ、Bは39ページ、Cは51ページ、Dは39ページ、Eは52ページであり、総ページ数は224ページで、前回より6%減となっている。 第2学年～ Aは32ページ、Bは28ページ、Cは61ページ、Dは29ページ、Eは58ページであり、総ページ数は208ページで、前回より6%減となっている。 第3学年～ Aは34ページ、Bは23ページ、Cは58ページ、Dは31ページ、Eは58ページであり、総ページ数は204ページで、前回より6%減となっている。
<p>使用上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の別冊に、心に残った教材やその理由を記入する「心に残っている授業の記録」を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 各学年に、教材ごとに考えを広げたり、深めたりするための学習の流れを示す「考える・話し合う」を配置し、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 全ての生徒が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインに配慮するなど、使用上の便宜が図られている。
<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、北海道について「野生の猛禽を守るために」で北海道釧路湿原野生生物保護センター（第2学年）や「襟裳のこと」でえりも町の砂漠化した故郷の再生（第3学年）などが取り扱われている。 ○ ICTの活用については、QRコード及び「インターネット」マークが示され、補助資料として活用できる画像・動画・参考となる外部ページへのリンクを掲載するなど、生徒が興味・関心を高めて授業に取り組むことができるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、第1学年教科書の巻頭において「自分を見つめよう」というコーナーが設けられており、改めて自分を見つめ、新たな生活に対する夢や目標などを考えることができるようにするとともに、第2学年、第3学年への進級にも、同様の配慮がなされている。
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、教材毎に多様な考えを引き出すために具体的な発問例を掲載するとともに、各学年の別冊「道徳ノート」に、自分や友達の考えを記入する欄を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深める力を育むことができるよう、教材ごとにその道徳的価値に準じた問いや、考えを広げ深めるための具体的な発問例を掲載するとともに、教材の最後に先人や著名人の名言を掲載するなどの工夫がなされている。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年ごとに本冊と別冊で構成されている。

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		233・日科		第1学年 第2学年 第3学年	道徳・709 道徳・809 道徳・909
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 主として自分自身に関することのうち、「自主、自律、自由と責任」及び「向上心、個性の伸長」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「自主、自律、自由と責任」について</p> <p>第1学年～自分のずるさをごまかして、人に文句を言っている自分を正当化し続けてきたことに主人公が気付く物語を教材として、これまでの自分を振り返り、自分で考え判断することの大切さについて考える活動（「銀色のシャープペンシル」）</p> <p>第2学年～成り行きで合唱の男性パートのリーダーになった主人公が、パートリーダーとしての責任の果たし方について悩む物語を教材として、誠実に実行してその結果に責任を持つことについて考える活動（「パートリーダー」）</p> <p>第3学年～卓球部の新キャプテンになった主人公が練習方法で迷って入院中の監督に相談に行ったが、やはり自分で考えるべきだと気付いた物語を教材として、自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断することの大切さについて考える活動（「スイッチ」）</p> <p>(2) 「向上心、個性の伸長」「向上心、個性の伸長」について</p> <p>第1学年～「おれは最強だ！」と自分に言い聞かせることで、十年以上も世界のトップ選手であり続ける車いすテニス選手について書かれた文章を教材として、個性を伸ばして充実した生き方を追求することの大切さについて考える活動（「おれは最強だ！」）</p> <p>第2学年～将来のことを真剣に考えるために、今までの自分を変えなければいけないことに主人公が気付いた物語を教材として、自己を見つめ、自己の向上を図ることの大切さについて考える活動（「ワン・ステップ」）</p> <p>第3学年～様々なテーマを追って自分のよさを生かしながら研究を進め、素晴らしい成果を出した山中先生の物語を教材として、失敗を恐れず困難を乗り越えて自己の向上を図ることの大切さについて考える活動（「ジャマナカめ」）</p> <p>○ 主として人との関わりに関することのうち、「思いやり、感謝」及び「相互理解、寛容」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>(1) 「思いやり、感謝」について</p> <p>第1学年～友人との待ち合わせ時刻にギリギリの主人公が、目と耳が不自由な男性から頼みごとを受けて困っている物語を教材として、思いやりをもって人と接することについて考える活動（「二枚のチケット」）</p> <p>第2学年～9歳で詩を書き始めた柴田トヨさんが多くの方々の愛情に支えられてきたことに気付いたという物語を教材として、多くの人々の善意により日々の生活や自分があることに感謝する大切さについて考える活動（「百歳の詩人」）</p> <p>第3学年～一人暮らしの母が脳卒中で倒れて帰郷した主人公が、故郷の町の人々の優しさに触れる物語を教材として、人間愛の精神に根差した本当の優しさとはどのようなことかについて考える活動（「帰郷」）</p> <p>(2) 「相互理解、寛容」について</p> <p>第1学年～嘉納治五郎の著書を読み、嘉納治五郎が残した言葉から自分の生活を振り返った主人公を描いた物語を教材として、謙虚に学び自分を高めていくことの大切さについて考える活動（「嘉納治五郎先生との出会い」）</p> <p>第2学年～錯視が使用されている図や写真を用いて、錯視により見え方が違ってくことについて書かれた文章を教材として、見え方以外にも、人によっていろいろな考え方の違いがあることについて考える活動（「あなたが見えているもの」）</p> <p>第3学年～お年寄りに席を譲ろうとした際に怒鳴られたため、自分の行為に疑問を感じた中学生に対する4つの異なる意見が書かれた文章を教材として、相手の立場を尊重することの大切さについて考える活動（「席を譲ってはいけないのですか」）</p>			

- 主として集団や社会との関わりに関することのうち、「家族愛，家庭生活の充実」及び「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」については，次のような学習活動を取り上げ，目標を達成できるようになっている。
- (1) 「家族愛，家庭生活の充実」について
- 第1学年～自分の生まれたときのことなどについて母や祖母から聞いた主人公が，当たり前と感じていた毎日の生活が特別なことであると感ずるようになった物語を教材として，充実した家庭生活を送るために自分にできることについて考える活動（「形見」）
- 第2学年～乗客が産気づくという突然の事態に，バスを運転していた母親が冷静に対処する姿を，偶然乗り込んだ主人公が目にする物語を教材として，気持ちがいずれ違っていた母親への敬愛の念について考える活動（「母のアナウンス」）
- 第3学年～難病により視力を失った息子に厳しいレッスンを課して立派なバイオリニストに育てた父親の物語を教材として，「視力をください」と答える父の思いについて考える活動（「迷わず選ぶ」）
- (2) 「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」について
- 第1学年～陸奥宗光が和歌山県の出身であることを知った主人公が，勇気をもたらす物語を教材として，先人に尊敬の念を深め，進んで郷土の発展に努めることの大切さについて考える活動（「銅像が教えてくれたこと」）
- 第2学年～高知県の小学校で郷土の偉人の学習が行われていることや，その地域の盆踊りには先人への感謝の思いが込められていることについて書かれた文章を教材として，郷土の伝統や文化を引き継いでいくことの大切さについて考える活動（「よ～いや，さ～」）
- 第3学年～財政状況が悪かった米沢藩を再建した上杉鷹山の生涯について書かれた文章を教材として，「なせば成る」という鷹山の言葉の意味を考え，進んで郷土の発展に努めることの大切さを考える活動（「なせば成る」）
- 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関することのうち，「生命の尊さ」及び「自然愛護」については，次のような学習活動を取り上げ，目標を達成できるようになっている。
- (1) 「生命の尊さ」について
- 第1学年～主人公の祖父の祖母に当たる人の幼少の頃の写真の姿が，自分とよく似ていることに驚きを感じた主人公の思いを描いた物語を教材として，生命の連続性について考える活動（「過去からのメッセージ」）
- 第2学年～全身に大やけどを負ったサハリンの少年を札幌の病院に連れてきて助けた物語を教材として，少年が助かった理由やそれに係わった人々の思いを想像し，生命を尊重することの大切さについて考える活動（「コンスタンチン君 命のリレー」）
- 第3学年～日本の臓器移植に関わる命と心の課題について書かれた文章を教材として，臓器を「提供する側」と「提供される側」の立場から臓器移植に関する問題について考える活動（「臓器移植をめぐる命と心」）
- (2) 「自然愛護」について
- 第1学年～乱獲のために現在では絶滅してしまった日本生まれの最後の一羽のトキを宇治さんが捕らえて保護する物語を教材として，生物と人間のよりよい関わりと自然環境を大切にすることの意義を考える活動（「ニッポニア・ニッポン」）
- 第2学年～人間が人類ばかりでなく地球上の生命全体の鍵を握っているが，人間の手で地球を死の惑星にはいけないと主張する論説文を教材として，自分たちが地球の未来のためにできることを考える活動（「ガラスの地球を救え」）
- 第3学年～筆者在峠の道を上りながら出会った風景を紹介したり，日本がそのような風景をもつに至った原因を示したりした論説文を教材として，自分がこれまで出会った美しい自然を振り返り，自然の崇高さについて考える活動（「峠」）

<p>内容の構成・排列、分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動については、各学年に、考えを深めるための話合いの視点を示す「考え、話し合ってみようそして、深めよう」を配置し、生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるように工夫されている。 ・問題解決的な学習については、各学年に、道徳的な問題の解決に向けた視点を示す「考え、話し合ってみようそして、深めよう」を配置し、様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。 ・体験的な学習については、各学年に、道徳的行為に関する体験的な学習に取り組むことができる教材を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫されている。 <p>○ 内容の分量については、次のようになっている</p> <p>※ Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材等」を表す。</p> <p>第1学年～ Aは28ページ、Bは33ページ、Cは78ページ、Dは25ページ、Eは28ページであり、総ページ数は192ページで、前回と増減はない。</p> <p>第2学年～ Aは28ページ、Bは36ページ、Cは67ページ、Dは32ページ、Eは29ページであり、総ページ数は192ページで、前回と増減はない。</p> <p>第3学年～ Aは33ページ、Bは32ページ、Cは66ページ、Dは38ページ、Eは23ページであり、総ページ数は192ページで、前回と増減はない。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 各学年に、学年末に記入する「○年生の心の成長を振り返りましょう」を配置し、自らの道徳性に係る成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 各学年に、オリエンテーションで道徳科の基本的な学習の流れを示す「道徳科って何を学ぶの？」を配置し、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 全ての生徒が多面的・多角的に考えを広げたり、深めたりしながら学習することができるよう教科書の使い方を示すページを配置するなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の配慮等</p>	<p>○ 地域素材については、北海道について「コンスタンチン君 命のリレー」でサハリンの幼児の北海道での治療（第2学年）や「足袋の季節」で小樽郵便局での後悔と自責の念（第2学年）などが取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については記載されていない。</p> <p>○ 小中連携による指導については、第1学年教科書の巻頭において「今日からはじまる」という明るく前向きな内容の詩が掲載されており、中学校に進学し、新たな生活に対して希望をもてる配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の学習の状況等</p>	<p>○ 道徳的価値を多面的・多角的に育むことができるよう、その後を考えさせる構成の教材を掲載するとともに、他の立場で考え、交流する視点を示す「考え、話し合ってみようそして、深めよう」を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深めることができるよう、道徳的な問題の解決に向けた視点を示す発問例を掲載するとともに、日常生活における身近な話題の読み物やデータ、物語等のコーナーを設定するなどの工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	<p>○ 学年ごとに本冊のみで構成されている。</p>